時事新報

明治十八年十月十四日（水曜日）
舊乙酉九月七日　みづのゑ、とら
日出午前六時零七分　日入午後五時二十五分
月出午前十一時二十二分　月入午後九時五十分
滿潮午前九時零五分　滿潮午後九時二十三分
（西曆一千八百八十五年）

時事新報定價（日曜日バカリ休刊）
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢一箇年金三圓十二錢〇左ニ掲グル各地ニ於テハ郵便税料ニテ配達致候
東京　横濱　横須賀　從神奈川至小田原驛　函根七湯　大坂
京都　大津　神戸　尾ノ道　福山　笠岡　岡山　廣島
和歌山　德島　高知　下ノ關　名古屋　岐阜　岡崎　豐橋
四日市　津　松坂　山田　仙臺　福島　二本松　石ノ卷
函館　青森　弘前　宇都宮　高崎　八王子
其他郵便遞送便宜ノ箇所ハ同レク郵送料不申受候

時事新報廣告料（前金）一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上卅日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢二厘	六錢八厘	六錢四厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢三厘	五錢九五	五錢六厘
自卅一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八五	五錢五厘	五錢二厘
五十行以上	七錢	六錢	五錢四厘	五錢一厘	四錢八厘

時事新報

コレラ病鎭壓（昨日の續）

今回コレラ病毒の蔓延を防止したるは重に人爲の力即ち專問の理に從ひ撿疫消毒離隔遮斷の四法を厲行しゝるに因るものなりとの次第は前日の紙上に於て粗ぼ述べたる所あるが抑もコレラ毒の最も恐るべきは誰も知る通りその蔓延傳染の勢ひの劇烈なる一條にして僅か一滴の種より動もすれば幾千萬の人に無慘の惡毒を押流したると其例し尠からず本年西班牙國のコレラの如きも最初は三人五人の患者あるに止まる模子ありしが遂々病毒の廣がるに從ひ千人二千人到る處同日の內に枕を比べて斃死するの慘狀に立至りしみとあり右の如くコレラ病は恐るべき傳染の力を有するものなりとせば凡そこの病の蔓延を防ぐの良法は手早くろの傳染の道を斷つより外に仕方ある可らず若しろの毒の漸く廣がりて東にも西にも所々に該病の發生を見るの場合に至りては豫防は寧ろ手後れの時と申すべし此時に差迫りて假ひ撿疫以下の諸法を施すとも時機既に後れて病毒猖獗の勢ひに抵抗する事甚だ困難なるべきなり彼れ西班牙のコレラは如何と若しや其豫防の手後れしたる爲め一層病毒を助長せしめたる跡も無きにしも非ずと覺ゆ兎に角にコレラ病毒の力甚だ盛んなるものゆゑに撿疫と離隔に消毒と并びに遮斷するとは實に大切なりと雖も今回コレラ病鎭壓の好成績に就て考ふれば遮斷離隔の二法ろの效最も著しと思はるゝなり其故は今更申すまでも無けれどコレラ病發生れ一家屋一町內若くは一區域を遮斷して人なり物なり一切れ往來交通と絶切り又コレラ患者、患者の毒と感受したる者共をば遠隔の地に連れ往き離隔法に基て都て他所との交通を禁止せばコレラ傳染の媒助物は他の健康なる人に其毒を傳ふべき機會なきが故撲滅の功を奏すると最も容易くして且つ最も確かなるに相違なきなり本年長崎コレラが高島并に島原の各所に傳染してその地を荒し立てたる原因を聞くに高島は石炭掘りに出でたる坑夫がそれ病毒と長崎より齎らし來りたるに出で又島原は長崎出稼の下女下男どもが長崎に居堪らずして其郷里に還歸ると同時に其病毒を輸入したるに因ると聞けり畢竟高島なり島原なり遮斷離隔の媒助物たるものが其毒を傳ふる機會多かりしため撲滅の奏を覈むりたるに外ならず若しろの防禦の功を奏せんとあらば最初コレラ病發生れ其家、其町に就て前記の如く遮斷法と施し又該患者と或る處に離隔してろの病毒を他に傳へしめざるやう大に注意せざる可ふず横濱港の如きも則ち右遮斷離隔の兩法の充分往屆きたる一例と云ふべし此といふも詰まる處ハ學問の働きを實地に應用して必至れ災害と其未だ至らざるに防止しゝるものに外ならず人文進步して智識の働きを逞うすること實に偉大なりと申すべきなり聞く横濱にて遮斷法嚴施れ砌り海岸通五丁目の遮斷地を離れたる處に突然傳染症のコレラ患者一名を發見したるに醫員諸氏は大に驚愕し如何なれば斯る處に斯る患者と現出せしやと段々取調べ見たるに其患者と最も他れ石炭擔ぎと與に海岸通五丁目廿番地に宿り居たる一人あるが同宿者の吐瀉に罹ると見て膽と潰し直ちに同所と立去て遮斷地外に潛み居たりとの事實が分り乃ち此者も亦早々高島町の離隔所に引移したりと云へり右の如きと實に危險の話しにして當時若し此一個の飛び火と看落し興症コレラ系統外の病ありとして深くその原因を探ぐらざりしともあらば毒燄遂に四方に延燒して遂に數萬の人を殺すに至りたるやも知る可らず我輩は此一事實と見ても今回の豫防法の殘る限なくこの手配りの屆きたると悅び兼て又ろの毒と未だ廣がらざるに撲滅するの必要なるを信して疑はざるなり幸ひ目下れ處ふては右の病毒も薄らぎ先づ安心ありといふと雖も明年なり又明後年なり何時何きれ地にコレラ病の發生を見るなしとも期し難し然る時ふは能く手後れあく手落ちあく充分の防止策と施行し斷して惡疫れ蔓延と許す可らざるなり夫れに付ても固より多分れ費用と勞力とを要するあらんなれど共去迹こきと以て恐怖すべきコレラ病の豫防と忽にそるとは成り難し但し人間は誠に無勘辨なる動物にして雖く慮り深く察し現在未來の事物を熟考比較しよく其判斷と爲し得るは極めて稀れあり故に家と燒れ財を失ひ一夜の烈風に全都を焦土と爲その惜むべく又恐るべきを知れども家屋と煉瓦石造よして火の未だ起らざるに先づ其延燒と防止するの利と知る者は甚だ少なしコレラも亦火災の如し人皆死れ恐るべきと知り病毒蔓延の有樣を見て恐怖狼狽すると知れども當初先づ大に金と勞と抛ちてこれと未然に防止するの利と知り又其恩を感ずる極めて少なきは普通の人情あり依て我輩は今日コレラ病鎭壓の成功と喜ぶに際し他年コレラ再發の時に當りて今日の事を忘れざるやう豫め一言忠告し置くものなり（畢）

官報

○明治十八年九月二十四日
任領事　領事兼判事正六位勳六等　安藤太郎

○明治十八年十月十一日
任權命婦　女嬬　山口甚子

○去る十日太政大臣より京都府へ左の通達ありたり
梨木神社　贈從一位右大臣藤原實萬
山城國上京區梨木町鎭座
右別格官幣社ニ被列候條此旨相達候事

雜報

○森文部省御用掛は昨十二日左の通仰渡されたり
文部省御用掛參事院議官　森有禮
學事巡視ノ爲メ新潟縣下へ出張被仰付候事

○總領事安藤太郎は去月廿四日左の通仰付けられたり
布哇國在勤被仰付候事　總領事　安藤太郎
外交官事務取扱兼務被仰付候事　總領事　安藤太郎

○東京市區改正及品海築港兩案の審査は去る八日を以て完了し同日會長芳川內務大輔より該會決議を報告せしに依り內務卿は昨十二日此の旨太政官へ具申せり
（以上五件本年十月十三日官報）

○佛國駐在官及領事　前安南順化府佛國駐在官ルメール氏は其在職中ふ何りか二三の失策ありたりとの嫌疑よて違りふず佛國政府より譴責せらるべしとれ說ある由又前天津在留佛國領事リステリユーベル氏は巴里の某新聞ふ載せたる同氏の談話の事に付外務卿ドフレシネー氏より說明を求められたる由なるが若しリステリユーベル氏にして十分滿足なる說明と爲すと能はざる場合には同氏は其罰と被むるならんと云ふ右に云へるリステリユーベル氏の談話とは本年八月十八日れルタン新聞に載せたる同氏がゴーロイ新聞の探訪者に語りたるものにて其事柄は英清同盟の事及び曾紀澤許景澄等の人物論ふ關するものなりと云ふ

○左宗棠追賞の上諭　去月二十六日（即清曆八月十九日）清國皇帝より故左宗棠氏れ勳功を追賞せられたる上諭は左の如くなりしと

八月十九日奉上諭、大學士左宗棠、學問優長、經濟閎通、秉性廉正、涖事忠誠、由擧人兵部郎中、帶兵剿賊、迭著戰功、蒙文宗顯皇帝特達之知、擢陞卿寺、同治年間、剿平髮逆及回捻各匪、懋建勳勞、穆宗毅皇帝深資倚任、畀以疆寄、洊陟兼圻、授爲欽差大臣、督辦陝甘軍務、運籌決勝、克奏膚功、簡任綸扉、優加異數、朕御極後、特命督師出關、肅清邊圉、底定回疆、厥功尤偉、加恩由一等伯、晉爲二等侯、宣召來京、管理兵部事務、命在軍機大臣上行走、並在總理各國事務衙門行走、竭誠贊畫、悉協機宜、旋任兩江總督、盡心民事、裨益地方、經歷中外、恪矢公忠、洵能始終如一、上年命往福建、督辦軍務、勞瘁不辭、前因患病、籲請開缺、迭經賞假、並准其交卸、差使回籍、安心調理、方冀醫治就痊、長承恩眷、遽聞溘逝、披覽遺疏、震悼良深、左宗棠著追贈太傅、照大學士例賜卹、並賞銀三千兩治喪、由福建藩庫給發賜祭一壇、派古尼音布、前往致祭、加恩予諡文襄、入祀京師昭忠祠賢良祠、並于湖南原籍及立功省分、建立專祠、其生平政績事實、宣付史館、任內一切處分、悉予開復、應得卹典、該衙門察例、具奏、靈柩回籍時、著沿途地方官、妥爲照料、伊子主事孝寬、著賞給郎中、附貢生孝勛、著賞給主事、均俟服闋後、分部學習行走、廩貢生孝同、著賞給擧人、准其一體會試、其二等侯爵、應以何人承襲、著楊昌濬迅速查明、具奏、用示篤念藎臣至意、欽此、

又右の上諭中に見えたる左氏の遺表は左の如し

奏爲主恩未報、臣病垂危、口授遺摺、仰祈聖鑒事、竊臣衰病日劇、籲懇天恩、賞予假期調理、於七月二十五日接到、具摺叩謝、將欽差大臣關防、及臣所部恪靖各營、移交督臣楊昌濬接收、本擬期日就道、于兩日中猝患痰痛、部坐羸單、手足痿痺、精核上涌、知其不起、臣以一介書生、蒙文宗顯皇帝特達之知、屢奉三朝、累承重寄、內參樞密、外總師干、雖馬革裹屍、亦復何恨、而越事和戰、中國强弱一大關鍵、臣督師南下、迄未大伸撻伐張我國威、懷恨生平、不能瞑目、渥蒙皇太后皇上恩禮之隆、叩辭闕廷、甫及一稔、竟無由再覲天顏、犬馬之戀、猶
待來生〔
、歐洲各國
際、盆臘
皇太后皇上於諸臣中
、艦砲各政、及早舉行
本、臣猶翻皇上
論、移不急之費以充
一心、實事求是、臣
投構擢、積極上陳、

○亞富汗境界の鉄道
ユイ及びメールの間に
エツエンド河との間
に着手したりと八月廿
よ見ゆ

○汽船問屋の區別
集會し各問屋資產の
に區別し其等取極免の
一昨日の紙上に記載せ
にて右の委員を廢し
村キヌ、田村角次郎、鈴
等の外更に庚の一等
々問屋の等級を定めわ

○地目變換見分　府廳
月ふ至る迄府下各郡區
々吏員と派遣するよし

○野菜菓物の市況　昨
野菜類にて大根ハ十分
一割れ下落又蓮根は生
の多く七分の作あれ共
れ十分れ作にて是も一
にて柿、銀杏は七分は
割程れ高直あり尤も柿
なるに若し雨天引續く
十錢位下落そと云ふ又
て賣買を見合せ居りし
貨せしり餘り長く貯藏
前より一時ふ賣出した
前にハ一籠一圓位なん
錢位の相場となりたる
お付七八錢より十七八
賣產なり又梨は追々
旬より入荷あく八幡
れ敢て此迄と大なる相

○神戸茶況　同港の茶
く各品とも幾分か上向
千斤二十斤、出荷四萬
八斤まて上等百斤二十
なりといふ

○畜音器及顯微鏡　下
畜音器は當時各地方へ
に三十五圓內外にて
又同社にて製する顯微
りしが目下六百倍のも
の見込あるよし

○一枚摺界六百　長野
右衛門と云ふは常に
迄多年の經驗を以て